

どうするどうなる水イボ対策

もうすぐプールの季節です。この時期気になるのが水イボです。「みんなと一緒にプールに入っているのかしら？」今回は水イボについてのお話し。

水イボ、正式には「伝染性軟属腫」といいます。伝染性ですから人からうつりますし、うつします。ウイルスが皮膚に付着することで感染し、2週間から長いと半年の潜伏期間を経て直径1~5mm程度の光沢があり白みがかった「いぼ」が出来ます。脇の下、膝の裏などによくでき、こすれてつぶれると中のウイルスが周りの皮膚についてまたいぼが出来ます。健康な皮膚ならウイルスが皮膚のバリアを侵入できず感染しませんが、乾燥肌等ではバリア機能は低下していますのでひろがりやすくなります。

水イボは治療しなくても半年から2-3年で治りますが、治るまではひろがる可能性があります。治療法として確実なのはピンセットで摘み取る方法です。痛みを伴いますので一度に5個までぐらいが現実的な摘除数でしょうか。痛みを緩和する麻酔のテープ薬もあります。内服薬、外用薬も使われることはありますが、目に見えて効果があるわけではありません。少ないうちに摘除、多数ひろがってしまったら保存的にというのが現実的な対応法でしょうか。

うつらないようにするには？健康な肌に水イボはうつりませんので肌を傷つけないようにお風呂上がりに1日1回保湿剤をつけましょう。プールやお風呂から上がる時はシャワーでよく流しましょう。タオルは家族内でも個人使用とし共用を避けましょう。

感染をひろげないため、日頃からお子さんの体をこまめにチェックしてあげてください。もし水イボが見つかったら早めにかかりつけの先生に相談してください。